

秋

1

朝もやの中を
おばすての駅までバスは登つて行つた
線路の側にうすもも色のダアリヤの花が咲いてみた
あの時僕は強い者のやうな氣だつた

*…

あをみどろが沈んでゐる中に鯉が動いてゐる
時々向きをかへてゐる
しやがんでゐると水面が近い
僕には何があるのだらう
自分の姿勢を打ちくだいても
僕は生きたい

2

障子の外では霜がおりてゐて
ざくろの実なんか星の下で凍えてゐるのだらう
あたたかいこたつに手をのべて僕は考へてみた
かなしい歌をひいては笑ひこけた
お兄さんはいい人よ
さむくなつたわねさむく……
黒い瞳で僕をみつめた
朝は朝で
三味線をかついで
上山田の白つばい路をかへつて行つた

3

あと一時間たつたならば
角兵衛をあなたはをどるのだ
はでな渦をつくつて人の心をゆらすのだ
僕はどんなにしてその時生きてゐるのだらう
ねたましさに身をよぢらせてゐるのだらう
あなたの澄んだ声や
みどり色の帯の事を
くちびるを嚙んで考へてゐるのだらう
山麓で紅い葉のゆれてゐるのがよく見えるね
つめたいものが室に流れはじめた
つめたい心がお互に触れはじめた

